

全日本高校模擬国連大会 本選出場！！

校内から選ばれた2ペア4名がオンライン予選会を通過し、11月11日・12日に、全日本高校模擬国連大会本選へ出場しました！！昨年に引き続き2年連続での出場は、まさに快挙！！夏の間全力で取り組んできた努力が報われ、4名は大喜びです！全国大会の様子をレポートします。

全国大会への取り組みは、リサーチから始まります。本戦出場が決定してから、メンバーたちは早速、Background Guide(BG)と呼ばれる議題解説書を読み込み、自国や他国について事細かに調べ始めました。今回の会議は過去にあった会議の模擬で、議題は「ロシアの侵略に起因するウクライナの人権状況」でした。そのため、参考とする資料は実際の会議日程前までのものと決められています。情報の精査をしながら、会議が開催された当時の状況を想像しつつ、自国の政策を詰めていきます。1ペアの担当国はポーランドでした。ポーランドは、ウクライナからの難民を数多く受け入れているという事実を考慮し、ウクライナ国民と自国民を守るための強固な反露姿勢を取るべきだと判断しました。もう1ペアが担当するリビアでは、内戦による人道的危機を過去に経験しており、その反省を活かした政策提案を行うことにしました。



いよいよ本番（11/11,12）！！会場となるのは、もちろん「国連大学」です。

今回出場するメンバーにとっては、校内模擬国連を入れると4回目の会議です。確実に場慣れしてきたはいるものの、国際会議が実際に開かれるこの場所はやはり特別。ここに来ることができた喜びと誇りを胸に、いざ会場へ！！

世界では、紛争による深刻な人権侵害が今現在進行中であり、会議に向けて調査を進めれば進めるほど、国際社会が果たすべき責任の大きさに気付いたメンバー達。

そんな大使としての責任感と使命感を持って挑んだ本大会が、いよいよ始まりました！会議冒頭から模擬国連ならではの熱気が溢れ、活発な議論を行う声が飛び交います。そんな中、どちらのペアとも積極的にイニシアチブを取ろうとする姿勢が見られ、夏の大会からの成長に驚かされました。この本大会は特に、予選を突破したペアが集まるので、リーダーシップもコミュニケーション力も抜群の生徒たちばかりです。その中でも、自分たちの主張を臆することなく行い、絶妙なペアの連携を取りながら議論を行うことができていました！感動しました！！



=====

<参加した生徒たちの声です！>

入念な準備の大切さを知った。スタンスを調査しきれていない国の大使に予想外の動きをとられて事前に作った行動計画が崩れたり、読んだことのない文書を引用されて慌てて読み込んだりするなど、準備不足が原因で国益を守るのが難しくなることが多々あった。もっとリサーチをして本番に臨みたかった。(高2)

予選での経験から準備は慣れていたため、ペアとスムーズにできた。始まった瞬間に、大半のペアがリーダーシップを取ろうとしていて、予選とは全く違うとすぐ思った。自分ができることを、できるだけやれたことには満足している。(高1)

自国を押し出すだけではなく、周囲の反応を見たり、事前に調べた情報を活用したりしながら全体を総括する能力を持った人が輝いていると感じた。私は、こういった能力が輝くのは決して模擬国連の中だけではないと思う。日常においても、自分の意思を強く主張することは必ずしも良い結果にはたどり着かない。国という多様性が個性となる模擬国連と同様に、人という多様性が日常生活では個性となっている。模擬国連で育つのは、情報を収集し適切に理解する能力だけではない。俯瞰的に考え、できる限りの良い結果に帰結させる能力、言い換えれば群の統率者としての技術が育まれる。少なくとも、私は模擬国連に挑戦して、これまでに述べたような多くのものを感じ、得られたと思っている。(高2)

予選会通過の発表から全日本大会までの約1か月半は英語の資料と寝食を共にし、ただただ「少しでもより良い決議案作成に貢献したい」の一心で会議準備に奔走しました。準備を進めれば進めるほど戦争の悲惨さと自分の不甲斐なさに容赦なく心身が砕かれましたが、それを紛らわすかのように担当国や議題に関する資料や過去の国連決議を片っ端からかき集めては熟読しました。リビアは史上初めて国連人権理事会における理事国資格を停止された過去をもちます。私たちは自国の国際社会における立場と過去の議論を鑑みて何度も話し合いを重ね、今会議においてリビア大使が担うべき役割は、人権状況の改善に向けた国際社会全体での共同責任を強調することだという結論に辿り着きました。会議当日も各国大使の主張が激しくぶつかり合う中で、終始人権侵害に対する厳しい姿勢を貫いた上で、国際社会全体での協調の道を見出すべく議場を走り回りました。出身国の違いに関わらず、誰しも守りたい大切な人がいます。でも世界は繋がっていますから、自分だけ・自分の国だけの平和はあり得ません。そこに対話の必要性が生まれます。もとより国連は、国連憲章第一条でその目的を「国際平和および安全を維持すること。(中略)平和を破壊する恐れのある国際紛争または状況の調整あるいは解決を平和的手段により、かつ正義と国際法の原則にのっとり実現すること」と定めています。国連創設から80年が経とうとする今も、二度の大戦を経た先人たちが今日私たちの世代まで受け継いできた「国際平和」への願いは未だ果たされていません。私たち高校生の活動が、この人類共通の尊い希望の実現に少しでも繋がることを、願わずにはられません。(高1)

=====

模擬国連コミュニティでは、模擬国連に取り組む人のことを「もぎこっかー」と読んでいます。そう。厚高もぎこっかーたちは、今年もすばらしい大使としての役目を果たしてくれました！全国には、すばらしいリーダーシップをとるもぎこっかー達が他にも大勢いて、彼らとの出会いも模擬国連の魅力の一つであり、大いに刺激になったと参加した生徒たちは言います。そして、引率顧問としては、国際的問題についての知識はもちろん、スケジュール管理や文献の調査の仕方、英語の文献の読み込み、英語のスピーチ力、交渉力とリーダーシップ、そして何より国際問題に主体的に取り組む立場になって見える新たな視野の形成、といった多くの能力を養うことができるこの模擬国連という活動の教育的意義に、改めて気付かされた大会でした！